

平成 30 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名 マミヤ・オーピー株式会社
代表者名 代表取締役社長 鈴木 聡
(コード：7991、東証第二部)
問合せ先 常務取締役 水谷 富士也
(TEL. 03-6273-7360)

個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

平成 30 年 3 月期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）の個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

1. 平成 30 年 3 月期（通期）の個別業績と前期実績値との差異（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前 期 実 績 (A) (平成 29 年 3 月期)	百万円 8,048	百万円 1,140	百万円 1,149	百万円 870	円 銭 93.28
当 期 実 績 (B) (平成 30 年 3 月期)	5,079	△14	△39	1,008	108.55
増 減 額 (B - A)	△2,969	△1,154	△1,188	138	
増 減 率 (%)	△36.9	△101.2	△103.4	15.9	

2. 差異が生じた理由

平成 30 年 3 月期の当社の主力である電子機器事業は、遊技業界において、ギャンブル等依存症対策の抜本的強化等を目的とした、遊技機に対する射幸性抑制に向けた出玉規制強化等の各種規則の改正の影響により、遊技場事業者の業績低迷に歯止めがかからず、新規設備投資案件が大幅に減少いたしました。

このような状況の下で、自社ブランド製品である液晶小型券売機「Operal（オペラル）VMT-600」の販売が着実に推移し、また製造原価低減にかかるプロジェクトの推進及び製造子会社であったマミヤ・オーピー・ネクオス(株)の平成 29 年 4 月 1 日付吸収合併による重複業務の排除による業務効率向上等によるコスト削減並びに新規事業の開始に伴う新製品の販売等にも粘り強く取り組んでまいりましたものの、当社の主力である遊技機周辺設備機器（OEM 製品）の売上及び利益の急減を補うまでには至らず、前期と比較して大幅な減収・減益を余儀なくされ、利益面においては、通期において営業損失及び経常損失を計上することとなりました。

以 上